

実証試験結果報告書概要編の様式見直しについて

H23 広報資料（旧称：実証冊子）において、「実証済技術や当該技術分野の普及拡大」のための営業資料として活用可能な報告ツールへ、資料の位置付けの見直しに向け、環境省各担当課室作成部分（＝前段部分等）を中心に改善策を講じた（H24 広報資料についても、同様の方針・目次構成で作成）。

積み残しとなっている最大の課題は、「分量が大きく、E T V関係諸機関における広報資料（及び実証申請者における営業資料）として使いにくいこと」であり、これに対応するため、H25 広報資料において、実証試験結果報告書概要部分を見開き2ページ程度の個票形式に改めることを検討した。

ただし、過大な表現や技術的に疑問のある申請内容に対し、技術実証検討会で内容の確認を頂いて概要版を作成しており、早急な切り替えが困難な技術分野がみられたことから、本年度においては、ご協力いただける技術分野のみを対象に、試行的に個票形式への切り替えを図ることとした。

具体的な個票の様式を表1、H24 V O C等技術分野の実証対象技術「PGM-1800（実証番号：100-1202）」を例とした記載例を表2に示す。なお、見開き2ページ程度と限られた分量の中で何を記載すべきかについては、技術分野によって差異があると考えられる。このため、各技術分野の特性を踏まえ、記載項目や各項目の分量等は適宜変更しても構わないこととするが（ただし、分野内では記載項目を統一するとともに、1技術当たりの分量は原則として2ページ程度以内に留める）、その基本様式として表1を作成した。

見開き2ページ程度とする場合、本編の内容を万遍なく記述することは不可能と考えられるため、表2の記載例にあるように、例えば自治体の導入／調達関連部局等の入門的な読者を想定し、「3. 実証試験の概要」について、

- 1) 実証試験要領と異なる点を中心に簡潔に記述する。
- 2) 試験実施状況の写真のみ記述し、具体的な方法は本編の参照を促す。

といった工夫を行うことが一案と考えられる（あくまで一般論）。

表1 実証試験結果報告書概要部分個票の様式

1. 実証対象技術	
実証番号	
実証対象技術	
実証申請者	
実証試験期間	
2. 実証対象技術の概要	
原理・概観写真	(概観写真)
特徴 (注意：本項の情報は、環境技術開発者が自らの責任において申請した内容及びその情報を引用したものです。)	
3. 実証試験の概要 <i>実証試験要領と異なる点を中心に簡潔に記述する。</i>	
4. 実証試験結果・考察	

--

5. 参考情報（ 注意：以下の情報は、環境技術開発者が自らの責任において申請した内容及びその情報を引用したものです。）

分野の特性に応じ、記載項目は適宜変更しても構わない（ただし分野内では統一）

価格・コスト概算	
本技術が効果を発揮するための条件	

表2 H24 VOC等技術分野「PGM-1800（実証番号：100-1202）」を例とした個票記載（例）

1. 実証対象技術	
実証番号	100-1202
実証対象技術	PGM-1800
実証申請者	日本レイシステムズ株式会社
実証試験期間	平成24年12月10日（月）～12月21日（金）
2. 実証対象技術の概要（注意：以下の情報は、環境技術開発者が自らの責任において申請した内容及びその情報を参考に整理したものです。）	
<p>原理・概観写真</p> <p>PID（光イオン化検出器）：試料ガスに紫外線を照射し、ガス中に含まれる揮発性有機化合物（VOC）の分子をイオン化することで、その電荷量からガス濃度を測定する。</p>	
<p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なVOCや有毒ガスを、ppbレベルの低濃度から10,000ppmを超える高濃度まで広い範囲を測定することができる。 ・内蔵した電池で駆動するポータブルタイプで、小型・軽量であり、操作ガスが不要なため、持ち運びができ現場で簡単に測定することができる。 ・操作が容易で保守性に優れているため、各種事業所での固定発生源から排出されるVOCのモニタリング、VOC回収装置監視、作業環境監視、排水監視、土壌地下水浄化監視など各種VOC発生源での連続環境監視用に利用できる。 	
3. 実証試験の概要 <i>実証試験要領と異なる点を中心に簡潔に記述</i>	
<p>試験実施状況の写真を右図に示す。各試験方法は本編 5. 実証試験実施方法を参照。</p>	
 <p>実証試験：PID</p>	 <p>実証試験：PGM-1800</p>

4. 実証試験結果・考察

視点	PGM-1800 結果まとめ
信頼性	<p>試験を実施した繰返し性、直線性、干渉成分の影響（二酸化炭素、水分）応答時間、再現性ともに、数 ppm 以上の濃度範囲では、非常に良好な性能を有していた。</p> <p>ただし、干渉成分の影響（酸素でのスパン）について、酸素濃度が 15% 以下の場合にやや大きな影響が見られたので注意が必要である。</p> <p>一部の結果で偏差が大きな値を示したが、その原因は測定濃度範囲（0.1～99.9ppm：分解能 0.1ppm）に対し、低濃度測定（約 5ppm 以下）のためであった。</p>
実用性	<p>室内環境用としては感度がやや不足していると考えられるが、作業環境（中濃度）から排ガス（高濃度）までの VOC モニターとして有効である。</p> <p>基本的な測定結果は校正用ガスのイソブテン換算濃度であり、各種 VOC の濃度値を測定したい場合は注意が必要である。各種ガスの換算係数（C.F.）がテーブルとして示されているが、ランプ等のばらつきによるものが、テーブル通りとはいかないようである。厳密に濃度を測定したい場合は、測定現場での各種 VOC の成分濃度比率に近い校正用ガスでスパン調整を実施することが必要である。</p> <p>各種のプログラミングモード（校正、測定、アラーム等）が準備されており、測定現場での利用に適している。内蔵データメモリ機能があり、PC へのデータ転送も可能である。</p>
簡便性	<p>操作手順は簡単かつ容易である。</p> <p>ただし、スパンガス濃度の設定変更などが、やや煩雑であった（例：数字送りが行きすぎた場合に戻れない）。</p>

5. 参考情報（注意：以下の情報は、環境技術開発者が自らの責任において申請した内容及びその情報を引用したものです。）

URL	http://nihonrae.com/
担当者所属・氏名	技術部 田中 聡平
連絡先 TEL / FAX	TEL : 03 (6269) 9646 FAX : 03 (6269) 9647
測定濃度範囲	2レンジ自動切換え（最小表示 0.1ppm） 0.1～99.9ppm 100～2000ppm
重量	235g
価格・コスト概算	30万円（参考市場価格）
電源	充電式バッテリー または AC アダプタ